流された血には血の報復を！

米独日枢軸帝国軍と対決し撃破せよ！

——10・21国際反戦デーを期して国際報復戦を貫徹せよ！——

10・21

共産主義者同盟赤軍派日本委員会

赤軍派日本委は全世界プロレタリアートに明らかにする。我々は要請された闘いに対して総力をもって自身のプロレタリア国際主義上の任務を果たすと。

党赤軍派日本委は全党の党員諸君、赤軍の戦友諸君、各戦闘団の同志達、そして全戦線の同志諸君に指示し要請する。

いかなる努力をはらっても、ドイツファシストによって流された血に対しての血の報復を、全ゆる可能な限りの全ての闘いでもって、絶対的に総力をもって闘い抜け！　現在諸君が担っている戦線、闘いの全てに優先させて、この与えられたプロレタリア国際主義の任務を徹底して貫徹せよ！

赤軍同志、バーダー、エンスリン、ラスペ、そしてメーラーに加えられたドイツファシストの白色テロー暗殺は、国際帝国主義ーファシスト供の全世界プロレタリアートに対する血の挑戦である。これに対して米帝ファシストは具体的に指示し援助し。日帝ファシストは自己敗北の克服の道を確認し賛美した。イスラエル・シオニストを先頭とする各国帝国主義ファシスト、とりわけ米帝ファシストと周到な調整と連けいと具体的協力をもって断行された、ドイツファシストーテロリスト部隊による世界帝国主義反対闘争組織「タイガーグループ」に対する白色虐殺テロ攻撃と同時にこの赤軍同志四名に対する言語に絶する虐殺テロルは実行された。我々は断じてこの虐殺をわすれることはできない。それは、かつてのドイツファシストによるドイツプロレタリアートの虐殺、ユダヤ民族虐殺、日本ファシストによる在日朝鮮人・社会主義者そして中国・朝鮮ーアジア人民への大虐殺、またアメリカファシストによるインディオ・黒人・朝鮮人・そしてベトナムーインドシナ・ラテンアメリカ・アフリカ人民にたいする虐殺を、我々が決して忘れはしないという事と同義である。社民党に政権を不安定ながら維持させ、そのなかで今日はっきりとドイツファシスト供はブルジョアジー・官僚によるファシズムのプロレタリアート・革命派にたいするむきだしの憎悪をあからさまにしてきた。四年「非常事態法」、71年革命派大弾圧、75年「レッドパージ法」、この十年間のドイツファシズムの積み重ねの頂点に、この暗殺テロルは存在する。今や、国際帝国主義の各国ファシストーブルジョアジー供の共通の期待と注目を受けて、ドイツファシストは完全なる独自のファシズムの道を、血ぬられた弾圧と統制の道を国家主義・法治主義の名でもって、大ドイツ主義のイデオロギーをふりまきながら、ヨーロッパから全世界を蹂躙せしとしている。

そしてまた日本ファシズムも、このかつてたどった道を異なるコスチュームでもって歩みつつある。そしてそれを背后であわつるのはもとよりアメリカファシスト達である。　獄中暗殺は、特にファシストの常套手段であり、革命派への抹殺攻撃であり、そして抵抗するプロレタリアートへの徹底した恫喝であり挑戦である。　今日、すでにあからさまな挑戦を開始した国際帝国主義の安兵、米独日枢軸体制は国際ブルジョアジーの最后の望みである。それ故に彼らは手段を選ばない。世界プロレタリアートと世界革命派に対する血にうえた攻撃はより以上に血ぬられるであろう。それは、国境を越えた革命機構の闘いによって追いつめられればられる程、その本性をむき出しにする。　国際的対決の頂点は、米独日枢軸対世界革命戦線ーICPO対JCPー国際ブルジョアジー対世界プロレタリアートの戦争である。特に世界革命戦争の端初としての国際ゲリラ戦争であり、赤色テロル対白色テロルの無制限の行使である。　現在の全世界の意識あるプロレタリアートの国際主義的任務は、この米独日枢軸体制に対する、いかなる所でも、いかなる時でも、いかなる手段を用いても、これと対決する闘争であり戦争である。

赤軍派日本委は、革命調整評議会指導部より発せられた「国際報復戦」の任務を認識した。我々は、日本における自からの闘いでもってヨーロッパ全土で展開されている抗議の闘いにプロレタリア国際主義の連帯の意を明らかにする。

流された血には血でもって報いよ！　プロレタリア国際主義の任務を戦闘でもって貫徹せよ！　無差別・無制限の米独日枢軸帝に対する赤色テロルー報復戦を貫徹せよ！